

19の思考スキルと子どもの姿

本章では、19の思考スキルについて、遊びのなかで子どもが発揮する思考力を見とったり、その発揮をさらに促したりするような環境構成や援助例をまとめています。

あくまで例ですので、この思考スキルを発揮するためにはこの活動をするという画一的なものがあるわけではありません。例えば、ある子が「図鑑で調べている」からといって、「多面的にみる」思考スキルだけを発揮しているとは限りません。その子は図鑑を見ながら、形が似ている何かと何かを「比較して」いるのかもしれませんが、「魚の仲間分けには『口』の形の違いがありそうだ」と「焦点化して」いるのかもしれません。もちろん、いくつかの思考スキルを同時に発揮していることもあるでしょう。表面的には同じ姿が見えていても、その子どもの言葉や様子、これまでの関心や活動などの様々な視点から見ることによって、多様な思考スキルが発揮されていることに気づいていきます。

活用にあたっては、そのような思考力の芽を発見することを楽しみながら、保育者としての関わり方を考えたり、他の保育者や保護者に伝えたりする観点にしていきたいと思います。また、19の思考スキルを全て意識して見とり、援助を考えることは実際には難しいことですので、まずは3つ程度意識することから始めてみるのがよいでしょう。

そして、「遊び」と「学び」のつながりを意識できるように、小学校以降の学習活動も示しました。保育環境や援助の工夫によって支えられる幼児期の思考力の芽の育みと、小学校以降の学習活動とのつながりを保護者や小学校の先生に伝える観点として、ご活用ください。

各思考スキルの発揮の見とり方と援助

思考スキル 19 **多面的にみる** 多様な視点や観点にたって対象を見る

「多面的にみる」とは、様々な視点や観点にたって対象を見ることです。例えば5歳児の活動では「まだ知らない動物かな」と自分以外の視点から想像を考えたり、「分からないからAさんに聞いてみよう」「図鑑で調べよう」と様々な角度から情報を集めたりする際に、「多面的にみる」思考スキルの発揮を促せることができます。そして、得意なスキルや得意な活動が多岐にわたる、子どもの得意な動物の想像も考えてみることで、興味をもったことを自ら調べていける環境も準備して関わります。

5歳児の活動例

- 身近な動物の絵や写真のなかで、「何匹はどんな動物かな?」と他の人の意見も交換する。
- 自分が経験し、興味をもったことについて、もっと詳しく知りたくなり、図鑑で調べる。

環境構成と援助例

- 自分とは違う興味や考えがあることは子どもが気づくような声かけをする。
- 子どもが興味をもったことについて、広げたり深めたりできるような環境を準備して準備する。
- 経験する行動や子どもの関心にあった図鑑や絵本を準備するところに置いたり、紹介したりする。

小学校1、2年生の学習活動例

- **生活**
 - 「どろでほしいのかな」と動物の立場にたって考える。
- **国語**
 - 感情などを書いて読みあたり角をたたりして共有しあう。
- **算数**
 - 形を持って分類したりすることを通して、形の異なる仕方について考える。

① 【思考スキル】

小学校以降の学習活動にもつながる思考力の枠組み

② 【活動例】

思考スキルを発揮していると思われる5歳児の活動の例

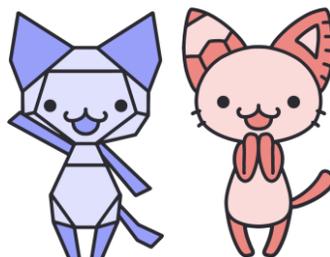
③ 【環境構成と援助例】

思考スキルの発揮を促す保育者による援助の例

④ 【小学校での学習活動例】

小学校(主に1、2年生)での学習活動例

まずは、思考スキルを3つ程度意識することから始めてみましょう



次ページからは、19の思考スキルを1つずつ紹介していきます



「多面的にみる」とは、様々な視点や観点にたって対象を見ることです。例えば5歳児の活動では「友だちはどんな気持ちかな」と自分以外の視点から物事を考えたり、「分からないからAさんに聞いてみよう」「図鑑で調べよう」と様々な角度から情報を集めたりする姿に、「多面的にみる」思考スキルの発揮をとらえることができます。そして、保育者はそのような力が発揮できるよう、子どもの身近な人の気持ちを考えてみることや、興味をもったことを自ら調べていける環境を準備して関わります。

5歳児の活動例

- 身近な人との関わりのなかで、「相手はどう思うだろう」と他の人の思いを想像する。
- 自らが経験し、興味をもったことについて、もっと詳しく知りたくなり、図鑑で調べる。



友だちはどんな気持ちかな？



冬の野菜には何かがあるかな？

環境構成と援助例

- 自分とは違う気持ちや考えがあることに子どもが気づくような声かけをする。
- 子どもが興味をもったことについて、広げたり深めたりできるような環境を予測して準備する。
- 経験する行事や子どもの関心にあった図鑑や絵本を手の届くところに置いたり、紹介したりする。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 「どうしてほしいのかな」と動植物の立場にたって考える。

国語

- 感想などを書いて読みあったり発表したりして共有しあう。

算数

- 形を作ったり分解したりすることを通して、形の構成の仕方について考える。



「変化をとらえる」とは、身近な対象を観察したり感じたりするなかで、変化や移り変わりに気づくことです。保育の場面では、野菜や虫などの動植物の成長の様子を観察して「大きくなった」「色が変わった」と驚いたり、お散歩など屋外活動で季節の移り変わりを感じたりする姿に「変化をとらえる」力を見とることができます。子ども自身が変化を感じ、心が動く体験ができるように、変化に触れられる環境を用意し、一緒に観察を楽しむなどの工夫ができるでしょう。

5 歳児の活動例

- 身近な植物や事象と関わるなかで、時間の経過などによって、対象の形・色・大きさなどが変わることに気づく。



トマトが緑色から赤色になることに気づいている



季節の変化を感じている

環境構成と援助例

- 子どもが自然などの対象に触れる体験を通して、それらの変化を感じ取れるような環境を用意し、変化を気にかけてくれるような声かけをする。
- 時間の経過のきっかけとなる言葉に共感したり、気づきを認めたりすることで、変化に対して子どもの関心が向くようにする。

小学校 1、2 年生の学習活動例

生活

- 季節の変化によって生活が変わっていくことを実感したりしていくなかで、その違いや特徴を見つける。
- 同じ性質や変化があること、異なる特徴や違いがあること、時間の変化や繰り返しがあることなどに注意を向け、自覚する。
- 動植物が育つなかでどのように変化し成長していくのかに関心をもって働きかける。



「順序立てる」とは、「お店屋さんごっこの準備をどんな順番でするといいかな」などと、段取りや順番を考えるような姿に見とることができるスキルです。しかし、子どもは「これもあれもしたい」「好きなことを早くしたい」といった思いが先に立つことがよくあり、実行の順序を適切に考えることが難しい場面も多いでしょう。そのような場合は「まずどうする？」と聞いて、“最初”を意識できるように促したり、「どんな順番ですると、楽しいかな」などと話しかけたりして、子ども自身が考えられるように援助していきます。

5 歳児の活動例

- 身近な人との関わりの中で、もっと遊びを楽しくするための段取りや、順番を考える。

例 1)

遠足のおやつを食べるのは、山に登る途中か後かなど、一日のどこにするとよいかを考える。



例 2)

お店遊びをするためにどのような順番で用意をするとよいか考える。

環境構成と援助例

- 「まずどうする？」と聞き、子どもが最初を意識できるようにする。
- 取り組みたい遊びの準備などについて、子ども自身が順序を考えられるように促す。

小学校 1、2 年生の学習活動例

国語

- 話す事柄の順序について考える。
- 行動したことや経験したことの順序に気をつけて話を構成する。
- どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大まかにとらえ、それを手がかりに内容を正確に理解する。



「比較する」とは、違うところや似ているところを見つけることです。遊びや生活のなかでは、くだものの大きさを比べたり、自分と友だちの身長を比べたり、様々な場面で子どもが自然に発揮している姿を見とることができるでしょう。例えば、じゃがいもの“数”の違いだけではなく、“重さ”に関心が向いた時に備えて、計量器を準備しておくなど、子どもが「比べる」ことを楽しめるような環境を準備することができます。

5 歳児の活動例

- 遊びや自然との関わりの中で、興味をもった対象について、特徴（数量、色、形など）の違いをとらえる。



どちらが高いかな



何が違うのかな

環境構成と援助例

- 子どもが関心をもち、共通点と違いを比べたくなるような対象に出会う機会を作る。
- 同じものでも、種類や条件などによって違う状態になることの不思議さに気づけるようにする。
- 重さや長さの違いに関心をもった時に比べやすくなるように、道具や材料を準備しておく。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 同じ性質や変化があること、異なる特徴や違いがあること、時間の変化や繰り返しがあることなどに注意を向け、自覚する。
- 秋の公園に出かけドングリを拾って遊ぶ。たくさん集まったら、大きさや形、色などで分けたり、並べたりして遊ぶ。
- 自分の作った車を友だちの車と比べて「土台を軽くすればよい」と予想したり予測したりして考える。
- 「違いがあるぞ」と変化や成長の様子を比べたり、現在の自分を見つめ過去の自分と比べたりする。

算数

- 目的に応じて直接比較をして比べる。
- どのくらい違うのかを知りたい時は数値化して比べる。
- 目的に応じて効率よく数量の大きさを比べる。
- 具体物の手際のよい比べ方や数え方を考えていく。



「分類する」とは、属性に従って複数のものをまとまりに分けることです。例えば、5歳児は遊びや生活のなかで、石を集めて色や大きさを分けたり、野菜を夏と冬に収穫できるもので分けたりします。保育者は、子どもが関心をもつ対象に出会い、その特性に気づき、分ける楽しさを感じられる環境を整えることが重要です。例えば、言葉遊びでは「赤いもの」や「くだもの」といった簡単な観点を決めて、グループ分けの手がかりを示すこともできます。

5歳児の活動例

- 遊びや生活のなかで、興味や必要感をもち、簡単な観点を決めてグループ分けを行う。



環境構成と援助例

- 子どもが関心をもつ複数の対象に出会い、その特性に気づき、分ける必要感や楽しさを感じられる環境を準備する。
- 様々な言葉に触れて遊ぶ時に、「赤いもの」「くだもの」「夏のもの」などグループ分けにつながるような手がかりを示す。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 自然の様子や生活の様子を比べたり、仲間分けしたりして考える。
- 秋の公園に出かけドングリを拾って遊ぶ。たくさん集まったら、大きさや形、色などで分けたり、並べたりして遊ぶ。

算数

- 具体物の手際のよい比べ方や数え方を考えていく。
- 辺の長さや直角の有無といった約束に基づいて図形を弁別する。



「変換する」とは、表現の形式（文・図・絵など）を変えることです。5歳児は、絵本を読んだ内容を絵に描いたり、言葉による表現が難しい時に色や形で表現したりします。また、目印や記号を用いて、身近な人に分かりやすく伝えたり、自分で覚えたりする工夫を行うこともあります。保育者は、子どもの表現を尊重し、「どうすると、分かりやすくなるかな？」などと一緒に考えながら、感じたことを絵や図で表現できる環境を整えます。

5歳児の活動例

- 絵本を読み聞かせてもらったり自分で読んだりして、興味をもった内容について、絵に描く。



- 言葉による表現が難しい時に、自分で認識するために色や形で表現する。
- 身近な人に分かりやすく伝えたり、自分で覚えておいたりするために、目印や記号を用いる。

環境構成と援助例

- 子ども一人ひとりの表現をそのまま受け止め、表現することの楽しさが感じられるようにする。
- 絵本の絵を見て、どのような発見があったかを話しあう。
- 相手に伝わりやすくするための方法について、一緒に考える。
- 感じたことや考えたことを、絵や図に表現できる環境を整える。
- 子どもの興味関心をとらえ、それらに関わる絵や写真などの情報や材料を子どもやグループの近くに配置する。

小学校1、2年生の学習活動例

算数

- 身の回りにある自然事象に関する数の大小関係を、絵などを用いて整理して表現し、どの項目がどの程度多いのかといったことをとらえる。
- 表やグラフを用いることで、簡潔になることや、視覚的に分かりやすくなることに気づく。



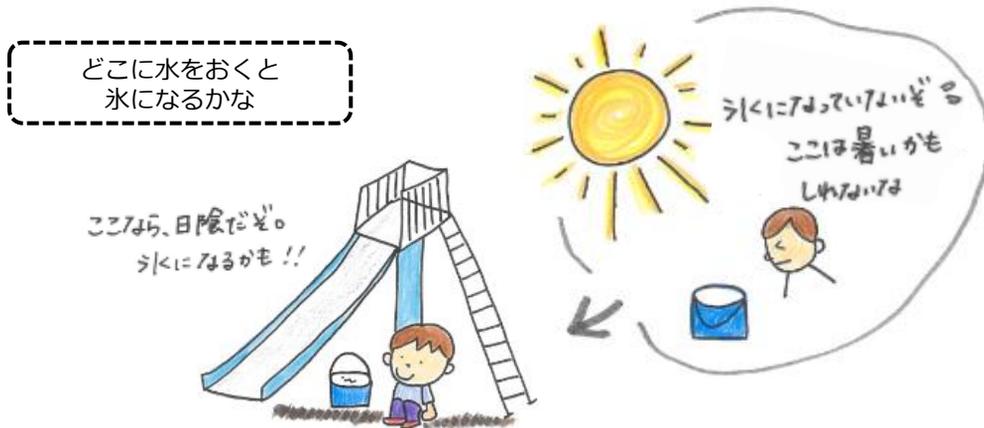
「関係づける」とは、ものごと同士のつながりを示すことです。例えば、5歳児は遊びや生活のなかで「前にした時には…」と経験の関係を見つけることや、紙を折って冊子を作りながら必要な枚数の関係を見つけていることがあります。保育者は「前はどうかだったかな？」などと声をかけ、子どもの気づきをつないで整理し、意識を促します。こうした援助を通じて、子どもが自分で関係性を発見する力を育てます。

5歳児の活動例

- 遊びや生活のなかで、これまでの園における経験同士の関係を見つける。
- 遊びや生活のなかで、必要性や便利さに気づき、数量や位置の関係を見つける。
- 季節の変化や時の経過と自然現象についての関係を見つける。

環境構成と援助例

- 子ども自身がものごとの関係に気づけるように、保育者が先回りをせず、子どもの気づきを整理して意識づける。
- 子どもが不思議に感じていることや疑問に思うことをとりあげ、これまでの園の体験とつなげられるようにする。
- 子どもが数量の感覚や自然現象の不思議さに気づけるような材料を用意する。



小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 「どうしてほしいのかな」と動植物の立場にたって考える（自分の行為とその結果を結びつける）。

国語

- 物語のなかのどの場面のどのような様子と結びつけて読むかを明らかにする。
- 相手の発言に関連した発言をすることで話をつなぐ。

算数

- 既習の数量の見方や計算の仕方を活用することで、未習の計算の仕方をを見つけ出していく。
- 時間の単位に着目し、短針や長針の動きを基に経過した時間をとらえて、日常生活に生かす。



「関連づける」とは、園における経験と日常経験を結びつけることです。例えば、子どもは園における友だちとのごっこ遊びのような場面で、家庭や地域において体験したと結びつけて、遊びを発展させていくことがあるでしょう。保育者は子どもが興味をもっている遊びや園における行事等と、家庭や地域の経験とをつなげ、子どもの気づきや学びを深めるサポートをします。

※ 便宜上、園における経験同士については「関係づける」、園での経験と園以外での経験については「関連づける」としてあります。実際には、子どもの経験を園が園以外かで分けにくいでしょうから、この2つは同様に見とることがよいでしょう。

5歳児の活動例

- 園における遊びや生活における体験と、家庭や地域における四季の変化や数量的な感覚などの体験を結びつけて考える。



環境構成と援助例

- 子どもの気づきに関連した活動やお話をして、子ども自身が経験を結びつけられるようにする。
- 遊びや関心が広がっていきそうな子どもの言葉をひろい、これまでの体験とつなげられるようにする。
- 園で関心をもっていることを保護者に伝え、保護者にも家の様子を教えてもらう。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 学校探検で見つけた図書室の様子を友だちと話しあうなかで、施設の位置や働きなどについて考える。
- 家族一人ひとりの存在や仕事、役割、家庭における団らんなどが、自分自身や自分の生活とどのように関わっているかを考える。
- 試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに使うものを工夫して作るなどして考えを巡らせる。

国語

- 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な情報を選ぶ。
- 文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結びつけて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりする。

算数

- ものの形や立体が身の回りでのどのようなところに見られるか、それらの用いられ方にどのような特徴があるかということに気づく。
- 時間の単位に着目し、短針や長針の動きを基に経過した時間をとらえて日常生活に生かす。



「理由づける」とは、自分の意見の理由を考えたり伝えたりすることです。例えば、子どもは遊びをもっと楽しくするためのアイデアやルールを考え、友だちに分かってもらうためにその理由を言うことがあります。また、不思議な自然現象に出会い、その理由を考えることもあるでしょう。保育者は子どもが心に留めた現象について「どうしてかな」と声をかけて、子どもの考えを促します。場合によっては、理由を言うことが難しい発達段階や状況があって理由を無理に尋ねないほうがいいこともあるでしょう。その子の心の動きに共感しつつ、思いを周りに伝えられるようなサポートが大切です。

5 歳児の活動例

- 心が動く状況や現象に出会い、その理由を考えようとする。
- 遊びを楽しくするためのルールや自分のアイデアを思いつき、その理由を話す。
- 「こうしたい」という自分の願いや思いを通すための根拠を述べる。



環境構成と援助例

- 様々な状況や現象に触れ、その不思議さを感じられるようにする。
- どうしてそう思うのかを聞き、子どもが考える機会をもてるようにする。
- 子どもが不思議に思ったことを一緒に調べたり、分かった喜びを共有したりする。

小学校1、2年生の学習活動例

国語

- 主人公などの登場人物について、着目した場面の様子などの叙述を基に行動の理由を想像する。

算数

- 具体物や図などを用いて、計算の仕方を考えたり、説明したりできる。



「見通す」とは、先のことを見すえて計画したり行動したりすることです。例えば、5歳児は積み木遊びのなかで「もっと高く積むにはどうしたらいいかな」と考えて、小さい積み木を選んだり、積み方を工夫したりすることがあるでしょう。保育者は子どもが関心をもったことに対して「どうしたらうまくいくかな」などと声をかけ、時にはヒントを与えながら、子ども自身がその方法に気づけるように支援を行います。

5歳児の活動例

- 先の活動を見すえた行動をとったり、計画したりする。
- 身近な事象や事柄について、次はこうなるのではないか、または、こうなってほしいと予想をする（根拠は感覚的なものであることが多い）。
- 身近な人を喜ばせようとして計画をしたり、分かりやすいように伝え方を工夫したりする。



環境構成と援助例

- 日頃の生活のなかで、子ども自らが見通しをもてるような関わりをする。
- 子どもが関心をもったことについて見通しがもてるように援助をし、納得がいくまで取り組めるようにする。
- 身近な人を思いうかべ、その人が嬉しい気持ちになる関わり方を考えられるようにする。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 「多分そうだろう」と予想して見通しを立てる。
- 自分のこととして行ふべきことや家庭での喜びや気持ちよい生活のための工夫などについて、何が自分でできることかを考える。
- 自分の作った車を友だちの車と比べて「土台を軽くすればよい」と予想したり予測したりして考える。
- 誰を対象とするのか、何を伝えるのか、どのような方法で伝えるのかについて考える。

国語

- 聞き手を意識して、聞き手に伝わるかどうかを想像しながら話の構成を考える。

算数

- 目的に応じて大きさをとらえるのに適切な単位を選択して測定し、大きさを表現したり、大きさを比べたりする。
- 何を知りたいかによって、着目する観点を考えられるようにする。



「抽象化する」とは、遊びや生活における具体的な経験から一般的なきまりに気づくことです。例えば、色水に紙の下の方を浸すと上まで染み込む様子や、異なる花の色水を混ぜた時の様子を観察し、水や紙、色の性質に気づくようなことがあるでしょう。保育者は子どもが興味をもっているものに実験的に取り組める環境を整え、気づきを共に楽しみながら、子どもが試行錯誤できる援助を行います。

5 歳児の活動例

- 興味をもった対象について、遊びのなかで繰り返し扱ったり観察したりすることを通して、対象の性質に気づく。

例 1)

色水に障子紙を浸すと、先生だけではなく誰がしても吸水する紙の様子を見て、水と紙の性質に気づく。

例 2)

砂場に池を作りたいが、砂場ではバケツではなくホースで一度に水を入れないと作ることができないことに気づく。

環境構成と援助例

- 子どもが興味をもっているものに実験的に取り組める活動と時間を整え、不思議さを感じたり発見を楽しんだりしながら特徴をとらえられるようにする。
- 子どもの気づきを一緒に面白がったり共感したりして、子ども自身が試行錯誤して考えを深める援助を行う。

小学校 1、2 年生の学習活動例

生活

- 通学路において、その様子やその安全を守っている人々の存在や役割が自分たちの安全な登下校を守り支えていることについて考える。
- 季節の変化によって生活が変わっていくことを実感していくなかで、その違いや特徴を見つける。
- 影踏み遊びでは、「影に入ると、逃げなくても大丈夫」「自分の前に影を作って逃げると踏まれにくいよ」と光と影の関係を見つける。

算数

- 3の段の九九の構成を通して「かける数が1増えれば答えは3ずつ増える」という計算に関して成り立つ性質を見つける。
- 「平らな面ならば重ねられる」など、その形のもつ性質や特徴を用いて目的を達成したり問題を解決したりする。
- 「 $16+8$ と $8+16$ の答えは同じ」など、具体的な場面に基づいて、数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだす。



「焦点化する」とは、大切な情報や対象に注目することです。例えば、リレーで勝つためには、「バトンを渡すときにスピードが落ちないようにしよう」などと、ある観点に着目するような姿に見てとれます。子どもだけでは絞り込むことが難しい場面では、子どもはどのような点に着目したいかについて保育者が気づきを促すことも大切になります。例えば、動物とのふれあいの場面を絵に描きたい時に、「どんなところが一番かわかった？ おどろいた？」などと声をかけることで、子ども自身が、印象に残ったことを意識し、テーマを決めることができるでしょう。

5 歳児の活動例

- 自分が知りたいことや興味があることに注目する。
- 遊びや生活を楽しくするために、大切だと思うポイントに注目する。
- 相手に伝えたいことがたくさんある時に、大切だと思うポイントを決める。

例 1)

子馬と関わったなかで、一番印象に残ったことを決める
(その後に絵を描く)。

例 2)

リレーに負けて悔しい、次は勝ちたいという気持ちから、バトンを渡す時にスピードが落ちないようにするとよいと考えて、繰り返し練習を行う。



環境構成と援助例

- 遊びのルールを決める時に、どんな点が大切になるか、自分たちで考えることを促す。
- 子どもたちが複数の意見から1つに決める時、どのような点に着目して決めるとよいか、子どもたち自身が考えられる手がかりを伝える。

小学校 1、2 年生の学習活動例

生活

- インタビューを通して地域の農作物の生育条件に目を向けるようになる。

国語

- 身近なことや経験したことなどのなかから話題を決め、必要な情報を選ぶ。
- 自分の聞きたいことを明確にして話を聞く。
- 書くことを見つけ、必要な事柄を集めて伝えたいことを明確にする。
- 文章のなかの重要な語や文を考えて選び出す。

算数

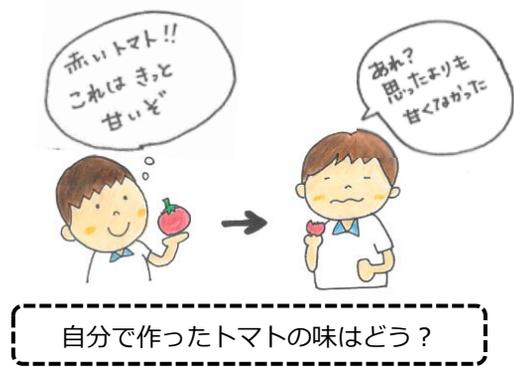
- 紙の4か所を直角に折って行って、長方形を作る活動を通して、図形を構成する要素に着目させる。



「評価する」とは、自分の意見や感想をもち、そこから物事を考えていくことです。例えば、子どもは友だちの意見を聞いて自分の考えを変えたり、自分の感覚的な考えを図鑑や本で確かめたりします。保育者は、子どもたちが自分の感想や考えをもてるよう、「やってみてどうだった?」「それでやっているかな?」などという声かけを通じて支援することが大切になります。

5 歳児の活動例

- 友だちなど身近な人の考えを聞いて、それに対する自分の考えを言ったり修正したりする。
- 感覚的な自分の考えについて、それでよいかを周りの友だちや先生に聞いたり、本で調べたりして実際に確かめる。



環境構成と援助例

- 先生や友だちの考えについて、どう思うかを伝えあう機会を作る。
- 子どもが自分の考えについて本当にそれでよいのかを確かめたい時に、その事柄に詳しい本や人を紹介する。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 他の遊びを真似してルールを改善したりしながら遊びを発展させていく。
- 自らの働きかけに対して「どうだったかな」と反応や結果を考えたり、継続してきた活動をふりかえて「だからそうなんだ」と自分とつなげて考えたりする。
- 現在の自分を見つめ、過去の自分と比べることで、自分らしさや成長し続けている自分を実感する。

国語

- 自分の文章のよいところを見つける。
- 内容のまとまりが明確になっているかを確認しながら書く。
- 文章を読んで理解した内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつ。

算数

- 2つずつ数えるなど数のまとまりを作り、そのまとまりに着目して数えたり比べたりする考えを見いだせるようにする。
- 計算に関して成り立つ性質を活用して新しい計算の仕方を生み出したり計算の仕方を工夫したりする。



「構造化する」とは、物事の順序やつながりを整理してまとめることです。例えば、運動会の曲を選ぶ時に、子どもたちがそれぞれの曲のよい点を話しあい、最終的に入場曲やダンスに使う曲を決めるような姿に見てとることができます。また、劇遊びをする時に、「けんかしていたけど仲直りをして、最後に手をつなぐお話がいい」というような、構成を考える姿もあるでしょう。保育者は子どもたちが意見を十分に出しあえる機会を提供し、うまく整理できない時にはその援助にあたるなどのサポートをします。

5 歳児の活動例

- 身近な目的や問題の解決のために、必要なものや情報をとらえ、それらを組みあわせる。
- 劇遊びなどをするために、話の流れ（最初～最後）をどうするかを話しあう。

例1)

運動会で使う曲を3つの候補から決める時に、それぞれの曲のよさや、どのような場面で用いるとよいかなどを話しあい、曲Aを入場曲に曲Bをダンスに用いることに決める。

例2)

お話を作る時に、けんかをして、仲直りをして、皆が手をつないで終わる話がいいと言う。



環境構成と援助例

- 子どもが意見を言ったり聞いたりする経験を重ねられるようにする。
- 子どもが伝えたいことをうまく整理できていない時に、「どうしたらもっとよくなるかな」「AさんとBさんの考えは同じだね」などと話を整理して考えが進められるようにする。
- 劇や行事などの流れについて、子どもたちの具体的な希望をつなぎ、全体を通して考えられるようにする。

小学校1、2年生の学習活動例

国語

- 聞き手を意識して、聞き手に伝わるかどうかを想像しながら話の構成を考える。
- 構成を考えることによって自分の考えを明確にしていく。
- 簡単な構成を考える際には、文章には「始め－中－終わり」などの構成があることを意識できるようにする。



「推論する」とは、根拠を基に先のことを予想することです。例えば、ある子どもが、公園の湿った場所で虫を見つけたことを覚えていました。その子どもは、別の公園でも同じような虫を探そうとして、湿った場所に行くことがあるでしょう。工作のお片づけの場面で、接着剤が固まらないようにする時にも、これまでどのような時に固まってしまったかという経験からの予想が役立ちます。保育者は自分も持っている答えをすぐに与えるのではなく、「この前はどうかだったかな」「こうなるかもしれないね」などと声をかけ、子どもが経験を思い出して、様々な予想をできるような援助を行うことができます。

5 歳児の活動例

- これまでに経験したり、聞いたりしたことを根拠として、先がどうなるかを予想する（願いや空想ではなく、実際に体験したり経験したりしたことを根拠として、再現性が高そうだ予想する）。

例1)

落ち葉や石の下に虫を見つけたという経験から、じめじめしたところには虫がいるのではないかと予想をして虫探しをする。

例2)

乾燥しやすい冬にフタが開いていて接着剤が固まった経験から、接着剤を固まらせずに使うためにはフタをしっかり閉めて乾燥させないようにするといった言う。



環境構成と援助例

- 子どもが予想しようとする時に、これまでの経験や知っていることを思い起こせるような問いかけを行い、子ども自身が様々な予想できるようにする。

小学校1、2年生の学習活動例

生活

- 図書館の機能やそこで働く人の役割を予想しながら、図書館の人にインタビューすることを話しあう。

国語

- 場面の様子から、なぜ登場人物がそのような行動をとったか、想像したことを伝えあう。



「具体化する」は、抽象的な事柄や未知のことを具体的な例を通じて理解しようとすることです。例えば工作で「地震に強い家を作ろう」と思い「そのためにはどうしたらいいかな」と柱の太さを工夫するなどの姿に見とることができます。また、センチメートルとメートルの単位など、知らないことについて、実際に身長計で単位の違いを見てその大小に気づく姿にも「具体化する」姿が見られるでしょう。保育者は子どもが初めて出会う概念や言葉について、具体的なものやことと結びつけて理解を深められるようなサポートを行います。

5 歳児の活動例

- 抽象的な事柄や確かには知らない事柄について、分かりやすく具体的にとらえようとする。

例 1)

「『なかま』ってどういう意味だろう？」という友だちの投げかけに、「同じクラスの友だちのことじゃない？」と答える。



例 2)

164センチの先生と2メートルの選手はどちらが大きいのかな？という疑問を受けて、保育者が身長計を出して示すと、その単位が示している大きさの違いに気づく。

環境構成と援助例

- 子どもが知らないこと（言葉や単位など）に触れた時に、具体的なものやことと結びつけられるようにする。

※ 幼児期はたくさん具体的な事柄から抽象化することができるようになってきている時期のため、その逆を子どもたちだけで行うことは難しいことがあります。そのため、保育者が具体化を意識して、「それってこういうことかな」と、子どもが初めて出会う事柄について具体的にとらえられるような援助をしていくことが大切です。

小学校 1、2 年生の学習活動例

生活

- 試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに使うものを工夫して作ったりする。

算数

- 大きな数を数えたり比べたりできるようになっていることを、ひまわりの種や木の実を数えるなどといった様々な場面で使う。
- 「 $2+2=4$ 」は具体的には、お皿に2つずつみかんがのっているなど、具体物と数とを結びつける活動を十分に行う。



「応用する」とは、これまでの知識や経験を生かして、新たな課題の解決に役立てることです。例えば、自分たちが育てた野菜をカラスから守るために、これまでの経験から光るディスクを使ってカラスを追い払うことを思いつくような姿に見てとることができます。保育者は子どもが直面する問題に対してすぐに解決策を示すのではなく、状況を整理したり、これまでの経験を思い起こす手伝いをしたりして、子ども自身が考えられるように促します。

5 歳児の活動例

- これまでの課題解決の方法を他の場面で用いたり、知っていることを実際の場面で用いたりして、新たな課題解決をする。

育てているキュウリを
カラスから守るには？

人がくると
にげるから
人形を作ろう！



カラスは
光るものが
きらいだから…

環境構成と援助例

- 子どもが直面している課題について、すぐには答えを示さず、必要に応じて子どもが理解できるように状況の整理を援助しながら、子どもたちで課題解決ができるように見守る。

小学校 1、2 年生の学習活動例

生活

- 1年生の時の経験や教科書を参考にして、栽培する時期や場所などの条件を考えながら、自分で育てる野菜を選ぶ。

算数

- 園児を小学校に招いたお店屋さんごっこの場面で、足し算や引き算で学んだことを生かして、学習用のおかねを用いたやりとりを行う。



「広げてみる」とは、物事の意味やイメージを広げていくことです。例えば、子どもはお絵描きや工作を通じて、「こんなふうを作ったら面白そう」と様々なアイデアをもったり、素材を用いたりしながら自分の作りたいもののイメージを広げていきます。あるいは、劇遊びのなかで登場人物の話し方や動きを自分なりのイメージで工夫する姿もあるでしょう。保育者は日々の活動や遊びのなかで、子どもの興味をとらえ想像を広げていけるような環境を工夫していきます。

5 歳児の活動例

- お絵描きや工作などで様々な素材に触れ、作りたいもののイメージを広げていく。



環境構成と援助例

- 子どもが関心をもった日頃の活動を、遊びのなかでもつなげられるような活動や環境を用意する。
- 見立て（ごっこ）遊びが広がるように、様々な感触・色・形の材料を用意する。

小学校 1、2 年生の学習活動例

生活

- 家族に目を向け、関心をもつことで、家庭の生活における自分の存在や役割が明らかになり、自分との関わりで家庭の生活を見つめ直す。
- 地域の場所や地域の人、それらが自分とどのように関わっているかを考える。

国語

- 絵や写真から場面や登場人物の会話、行動を想像し、言葉を書き添えたり、お話を作ったりする。
- 本の表紙や題名からどんな話が展開されるのかを予想する。
- 登場人物の行動や会話について、何をしたのか、なぜしたのかなどを具体的に思い描きながら、その世界を豊かに想像する。



「要約する」は、必要な情報に絞って簡潔に伝えることです。例えば、友だちの前で自分の考えをひと言で述べる場面や、保育者に対して自分の大切なことを簡潔に伝えるような場面でスキルの発揮を見とることができます。もちろん、子どものまとまらない気持ちをそのままに受け止めることも、とても大切ですので、いつも短く伝えるように促す必要はありません。例えば、集まりの会で皆の意見を出しあう時など、子ども自身が必要を感じられる場面で、保育者は「まとめて話してみようか」などと声かけができるとよいでしょう。

5 歳児の活動例

- 遊びや生活のなかで、自分や身近な相手にとって、特に大切だと思うところに絞って話したり書いたりする。

例 1)

友だちの前で発表する場面で、自分の思ったことをひと言で話す。

例 2)

保育者に子ども同士のけんかやケガの状況を簡潔に伝えようとする。



環境構成と援助例

- 一定の時間や大きさの紙面などにおいて、子どもが伝えたいことを表現する機会を設ける。

小学校 1、2 年生の学習活動例

国語

- 集めた事柄の全部を話のなかに取り入れるのではなく、伝えあうために必要な事柄かどうかを判断して選ぶ。